

ご利用案内とお願い

大隈城跡のある山頂は、「嘉穂益富城自然公園」として整備され、桜やモミジに囲まれた散策路が広がります。戦国期の曲輪群や堅堀群が良好に残り、主郭には石垣跡や樹形虎口跡が見られ、筑前六端城時代の面影を伝えます。四季折々の自然とともに、歴史の息を感じながら城郭遺構を巡ることができます。
※植物や生物の持ち帰りは禁止されています。

交通アクセス

大隈城跡(益富城跡) 〒820-0303 福岡県嘉麻市中益

「飯塚バスターミナル」より西鉄バス(27)乗車約40分
「西鉄大隈」バス停で下車の後、徒歩約25分(1.5km)

国道211号「一夜城」「滝の観音 円通寺」の看板より
左折後1.0k



お問い合わせ

嘉麻市教育委員会生涯学習課 文化推進係

☎ 0948-62-5720 ✉ bunka@city.kama.lg.jp
(※平日のみ)



嘉麻市の文化財に関する情報は公式SNSで!
アカウントは全て@kamanobunka



大隈城跡ゆかりの場所・文化財

聖寿山 麟翁寺

りんのうじ

大隈城に着任した後藤又兵衛が母を弔うために建立し、又兵衛出奔後、後任の母里太兵衛によって再興された寺院です。境内には太兵衛と子、孫の墓が並び、歴史の面影を今に伝えています。山門は、かつて大隈城から移築されたものと伝わり、往時をしのばせる趣があります。さらに、「筑前竹槍一揆」では詮議と処罰の場にもなったと伝わる、歴史を感じる寺院です。



伝 搦手門



松原山 善照寺

ぜんしょうじ

大永年間(1521~27)に創建された歴史ある寺院です。境内には本堂や鐘楼などの堂宇が整然と立ち並び、静寂に包まれた空間が広がります。秋月藩とのゆかりも深く、黒田長重が滞在した記録も残るなど、時代を超えて物語を伝える貴重な寺院です。山門は、かつて大隈城の正門を移築したものだったと伝えられ、歴史を感じさせる趣を今に伝えています。



伝 大手門



益富山 円通寺

えんつうじ

大隈城の廃城後、黒田氏により麟翁寺の末寺として建立されました。安永年間(1772~79)には糸島郡小田の里から観音菩薩が勧請され、「滝の観音」として親しまれています。有事の際には廃城となった大隈城に代わり、兵を駐屯させる機能も担っていたと伝えられています。



円通寺石段



一夜城伝説

いちやじょうでんせつ

天正15年(1587)、豊臣秀吉が九州攻めで秋月氏を攻略。堅城・岩石城を1日で落とされた秋月種実は拠点とした大隈城を壊し古処山城へ撤退。秀吉は大隈城に布陣し、住民から戸板を大隈城に集め、一夜で「張りぼての城壁」を再現します。これを見た秋月氏は戦意を喪失降伏。心理戦で勝利を収めました。この伝説は今も地元で広く語り継がれています。



一夜城伝説を描いた絵馬

国指定重要文化財

華文刺縫陣羽織

かもんさしぬいじんぼおり

豊臣秀吉の秋月氏攻略に協力した恩賞として大隈町が賜ったと伝わる陣羽織は、昭和35年(1960)に国の重要文化財に指定されました。幾何学模様が刺繍されたキルト生地を用いて、正面には金襴を施し、背には緋ラシャの五七桐紋を配しています。南蛮貿易を通してインド西端のイスラム圏で制作された生地を入手し、秀吉の好みに合わせ仕立て直した名品です。(非公開)



(上町・五日町・三日町所蔵)

須賀神社

すがじんじゃ

保元年間(1156~1158)、鎮西八郎為朝の長男・太郎基朝が京都八坂神社から分霊を受け、馬見の小高い丘に祇園宮を創建。後に大隈町へ遷座し、昭和45年(1970)に現在の場所へ移りました。素戔嗚命、大己貴命、稲田姫命、事代主命を祀り、古くから人々の信仰を集めています。境内には、秀吉が陣羽織を贈った場面を描いた大絵馬や豊臣神社もあり、歴史に触れることができます。



須賀神社



福岡県指定史跡

大隈城跡(益富城跡)



戦国期と江戸期の築城技術が混在する 時代の転換期を語る城

大隈城跡(益富城跡)

大隈城跡(益富城跡)は、戦国時代末期から江戸時代初期にかけての遺構が良好に残る山城で、城郭は標高約190mの山頂に位置する主要部とそれらを取り囲む広大な外郭部に分かれます。戦国時代には「益富城」、江戸時代には「大隈城」と呼ばれていました。

本城は、戦国時代末期から江戸時代初期にかけての城郭構造や政治状況の変遷を知ることができる県内でも貴重な文化財として、令和5年3月28日に福岡県指定史跡となりました。



城の縄張り図

主要部

主要部は黒田氏が入国後、最新の技術を用いて大規模改修が行われた。本丸では4棟の礎石建物跡、二の丸では1棟の礎石建物跡と、1棟の掘立柱建物跡が確認されている。

水の手曲輪

駐車場

トイレ

1 畝状竖堀群

ここから先は道が狭く車での離合はできません

2 別曲輪

外郭部

主要部を1.5kmにわたり取り囲む大外郭は、特に東側に防御施設が集中している。これは秋月氏が豊臣群と対峙するために準備したものと考えられている。戦国時期の山城に見られる畝状竖堀群は、総数160本を超え、長さ50~60mに及ぶものも存在している。

5 横堀

3 櫛形虎口

嘉穂アルプス



photo spot

伝 白米流し跡



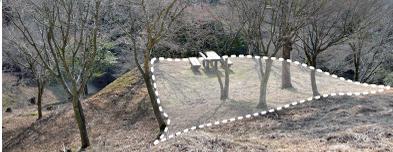
豊臣秀吉による秋月氏攻めの際にここから白米を流し水が潤沢にあるよう見せたと伝わる。

1 畝状竖堀群



V字状の溝を斜面に複数掘り、敵の左右の動きを止めるもの。戦国時代に多用された。

2 曲輪



尾根や斜面に造成した平地

3 櫛形虎口



方形の空間を複数組み合わせることで防御力を高めた出入口

4 横矢



土塁を張り出させて、ここから矢を射かけて敵を撃退する施設

5 横堀



曲輪に沿って掘られた溝で、竖堀群と合わせて城の守りを固めた施設

益富山円通寺へ



関連年表

1584頃 秋月種実は本拠地の古処山城以外に、「益富城」をはじめとした秋月二十四城といわれた出城を構え最盛期を迎える。

1587 豊臣秀吉が九州平定のため、小倉城に入る。秋月攻略のため、秋月二十四城の一つである岩石城を一日で落城させ、「益富城」に布陣。古処山城の秋月種実・種長親子は戦わずして降伏。(三の時の様子が一夜城伝説として伝わる。)

1600 黒田長政の筑前入国後、筑前六端城の一つとして後藤又兵衛基次を城主に定める。

1606 又兵衛出奔につき母里太兵衛友信が城主となる。

1615 母里太兵衛友信病死。同年、一国一城令により、廃城となる。

関連展示

碓井郷土館では大隈城の瓦やジオラマを展示しています。



嘉麻市立碓井郷土館
嘉麻市上白井 767

